

一里あまり来ると道がせまくなる。

海拔四千米突の金山寺へは、自轉車を擔いで上るより方々がな。

それにまだ夜は明けない。

僕は又氣が變つたのだつた。

千萬長者の家が、一里半あまり行くとある。

海岸傳ひに新道がついてゐる。

寸時足を止らせば潮岸石の上だ。

遮二無二踏ん張つた。

少しづつ、白け掛かつた。

青黒い海の水は重たそうだ。

小さな島が點々としてある。

人間の匂ひも鼻につかない。

自然の美に僕は、此の時程打たれた事はない。